

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：32618
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2011～2012
 課題番号：23700984
 研究課題名（和文）社会人の「学び」におけるサードプレイスと社会ネットワークが果たす機能
 研究課題名（英文）The function of third place and social network in learning of adults
 研究代表者
 松下 慶太（MATSUSHITA KEITA）
 実践女子大学・人間社会学部・准教授
 研究者番号：80422913

研究成果の概要（和文）：調査結果から勉強カフェにおける社会人たちの学習を支援しているものは、学習者を中心としたつながりが大きく機能していることが示された。また、そのつながりは毎日顔を合わせて学習を推進していくような「強い紐帯」というよりも緩やかな「弱い紐帯」であると言える。また、こうしたネットワークの構築には勉強カフェのスタッフが大きな役割を占めていることが示された。

研究成果の概要（英文）：The research shows that a network of learners is the fundamental factor of support for learners in Benkyo cafe. The network is not “strong tie” which learners make up by meeting each other everyday, but “weak tie” from the view of social capital theory. And not only learners but also staffs of Benkyo cafe contribute to build the network.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	900,000	270,000	1,170,000

研究分野：教育工学

科研費の分科・細目：

キーワード：学習、ソーシャル・キャピタル、社会人、ネットワーク、サード・プレイス、イノベーション

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、社会人が OJT など企業でのトレーニング・研修だけではなく、職場外でも主体的・積極的に学ぶことが求められている。その中で、R. Oldenburg (1989) が指摘した都市空間における職場でも家でもない「サード・プレイス」は、社会人が学習を行う「場」としても重要な意味を持つようになった。

(2) 中原・長岡 (2009) が指摘するように、「サード・プレイス」での学びはインフォーマルでパブリックな学習であり、異なる文脈を持つもの同士が互いに学び合う、越境によ

る「学び」によって成長することが期待される。その一方でこれまで行われてきたような現実的なスキルや資格獲得といったフォーマルでプライベートな「学び」も依然として重要な意味合いを持っていることも事実である。

(3) フォーマルで、プライベートな「学び」はこれまで通信教育や自学自習によってなされることが多かったが、そこでは個人の努力が求められてきた。しかし、こうした自学自習はモチベーションの維持が難しく、継続に困難を伴うことが多かった。

(4) 本研究では、後述するように「勉強カフェ」という、自学自習の場でありながら、カフェのようにコミュニティの形成も目指す場に注目し、学習者のモチベーションの喚起、維持について「ネットワーク」に注目しながら調査を行う。

(5) 社会のさまざまな活動、あるいは組織・集団のパフォーマンスを分析する上でネットワーク（つながり）は重要な視点である。人と人との互酬性や信頼に着目した概念であるソーシャル・キャピタルは Coleman (1990)、Putnam (1993) などの一連の研究で注目を集め、教育・学習分野においても応用されている。とりわけ、普段から顔を合わせるような強固な、それゆえに狭いつながりである「強い紐帯」と、普段はあまり顔を合わせない程度の、それゆえ広いつながりである「弱い紐帯」は分析を進める上で有効な概念であると考えられる。

(6) 教育・学習とソーシャル・キャピタルとの関連に注目した研究としては、①社会におけるソーシャル・キャピタルの蓄積が中退率の低下など主に学校教育との関連に注目するもの (Coleman 1988 など) と、②知識経営などの視点から主に組織における「学び」や知識の取り扱い、熟達化に注目するもの (Wenger 1998 など) とに大きく分けることができるだろう。これらは「学び」を個人の行為として完結したものと捉えるのではなく、ネットワークの文脈から捉えることと同時にネットワーク分析の対象としての「学び」というテーマの重要性を示している。

2. 研究の目的

(1) 本研究では①都市空間における「サード・プレイス」、②社会人の「学び」、③社会ネットワークの構造と形成・維持プロセス、それぞれの相互作用に注目する。

(2) 特に学習者が「サード・プレイス」で形成する社会ネットワークについて①どのような構造になっているか、②どのように形成・維持されているかを調査・分析によって実証的に示すことにある。

(3) またそれらの調査結果を踏まえた上で①都市空間における「サード・プレイス」が社会人の「学び」において持つ社会的意味、②社会人の「学び」における社会ネットワークの意義、についても考察することを目的とする

(図 1 参照)。

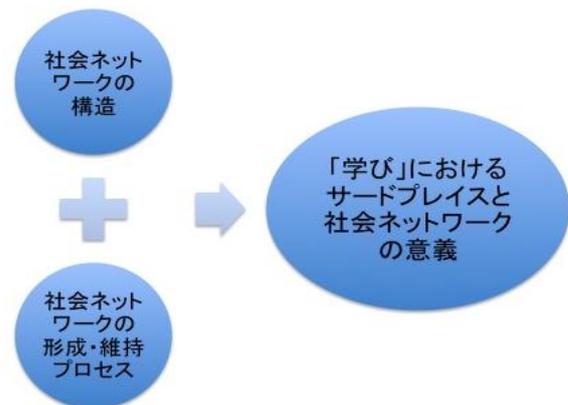


図 1. 研究の見取り図

3. 研究の方法

(1) 秋葉原にある「勉強カフェ」を調査のフィールドに設定し、定期的に行われる勉強会、セミナー、交流会などのグループ、イベントとそこへの参加者を調査対象として取り上げた。「勉強カフェ」は「勉強する大人が集まるプラットフォーム」を標榜しており、そこではさまざまな勉強会、セミナー、交流会が形成・開催されており、異なる文脈同士の学び、スキル・資格獲得のための学びの双方が観察でき、本研究のフィールドとして適切であると考えられる。

(2) 具体的には①会員・参加者へのアンケート調査と学習者の社会ネットワーク分析を実施し、会員同士のネットワーク構造を明らかにする、②会員・参加者への半構造化インタビュー、グループインタビューを実施し、「勉強カフェ」で形成される社会ネットワークの形成・維持プロセスを明らかにする、③参与観察を行うことによってサード・プレイスとしての「勉強カフェ」とそこで形成される社会ネットワークが会員の「学び」にどのような意義を持っているかを考察する、という作業を行った。

(3) ①の会員・参加者へのアンケート調査に関しては、「勉強カフェ」のスタッフに協力のもと、2012年10月から「勉強カフェ」に訪れた会員に対して配布し、「勉強カフェ」でよく話す人などを回答してもらい、そこでの回答をもとにネットワーク分析を行った。②に関しては、会員・参加者3名に対してどういった理由で「勉強カフェ」に訪れているのか、どのようにモチベーションを維持しているのかなどを中心に研究者による半構造化

化インタビューを行った。また収集した情報を補足するために、「勉強カフェ」で働いているスタッフ（正社員・学生アルバイト双方を含む）、「勉強カフェ」秋葉原スタジオのオーナーにもインタビュー調査を行った。③に関しては、2012年6月～8月を中心に、「勉強カフェ」にて参与観察を行い、会員がどのような会話を交わしているか、どのような行為を行なっているのか、などを中心にデータを収集した。

4. 研究成果

(1) 調査の結果、社会人における学びの内容は多様であるが、それを促進させる重要な要素は他者とのつながりであることが示された。そのようなつながりには大きく区分すると、①一緒に勉強する仲間、②同じ勉強をしていなくても話したりできる仲間、がいることが示された。

(2) これらはそれぞれソーシャル・キャピタル論で言う、「強い紐帯」と「弱い紐帯」を用いて説明することが出来る。またこのようなつながりが形成するネットワークにおいては「ハブ」となる人が存在することが分かった。

(3) この「ハブ」となる人は自然発生的に生まれることもあるが、一方で、場を提供するスタッフが積極的にネットワークの生成に関与することにより、ある程度意図的に自らが「ハブ」となることも可能であることが示された。

(4) また勉強カフェにおいて、そこで学ぶだけではなく、さまざまな業界、年齢層の人が集うことによってキャリアを考えるきっかけになったり、そこでできたつながりによって新たなビジネスのきっかけになったりするなど、学びだけにとどまらない展開が見られることもあった。

(5) こうした結果を踏まえると、「学びのサード・プレイス」に見られるつながりに注目した本研究は、「学び」が起こっているのは学校という空間である、あるいは学びは学習者がそれぞれ孤独に進めていくべきという学習観を少なくとも社会人の「学び」においては拡大していることを示した。また社会人における「学び」においてはつながり、コミュニティ、コミュニケーションが重要となることを示した。

(6) 本研究で取り上げた社会人の「学び」は主に資格やスキルの取得であった。今後研究を展開させていく上で比較対象としたいと考えているのは、こうした知識の習得だけではなく、新たな知識の「創造」すなわち、イノベーションが起こる場、ネットワーク、コミュニティのデザインである。また近年では、海外・日本ともに個人起業家、フリーランスが集まり協働する場であるワーキングスペースが増加している。こうしたワーキングスペースにおける協働は「勉強カフェ」で見られたネットワーク構造やコミュニティの構造とどのように異なるのかなども今後、研究を進めていく上で比較していくべき対象であると考えられる。

(7) 本研究は以上のように「学び」あるいはイノベーションを起こすための場、コミュニティ、ネットワークなどを含めた総合デザインを考える上でインパクトを与え、重要な基盤を提供するものであったと言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- (1) 松下慶太 (2013) 「フィンランド社会における教育と学習 —21世紀におけるICTとソーシャル・ラーニング」『人文社会科学論叢』22巻, pp. 9-14, 査読無し
- (2) Keita MATSUSHITA (2012) Social Recruiting of University Students in Japan, Journal of Socio-Informatics, vol. 5, pp. 73-80. 査読あり

[学会発表] (計2件)

- (1) 松下慶太 (2013) 「北欧におけるモバイル社会と学習」モバイル学会 (於青山学院大学)
- (2) 松下慶太 (2013) Development of a digital multimedia book for career education and media literacy, E-learn2012 (於Montreal, Canada)

[図書] (計1件)

- (1) 松下慶太 (2012) 『デジタル・ネイティブとソーシャルメディア』教育評

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松下 慶太 (MATSUSHITA KEITA)
実践女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：80422913